

【注意点1】 右手&左手

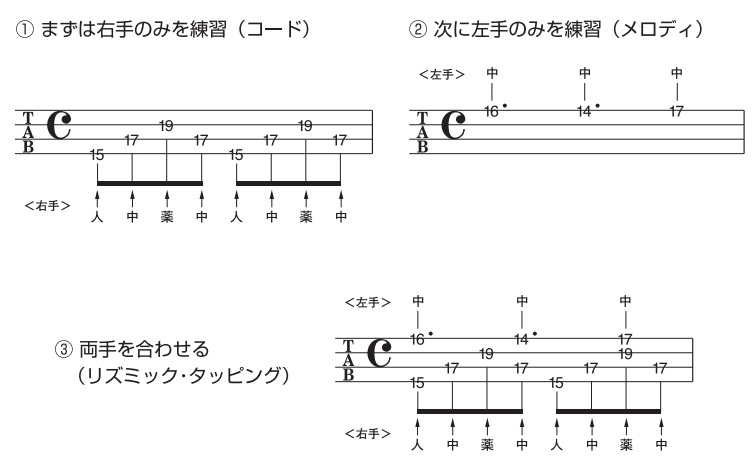
左右で異なるリズムとなる リズムック・タッピング

リズムック・タッピングとは、左手と右手が別々の役割を担う特殊なタッピングだ。片方の手がコードとリズム（コード・アルペジオ）、もう一方の手がメロディを奏するため、**左右でリズムが異なり【註】**、難易度が高い。ドラマーやピアニストと違って、ベーシストはそれぞれの手が違うリズムを刻むことに慣れていないので、弾き慣れるまでは、片方の手のリズムに引っ張られて、両手の分離がうまくできないだろう。そこで、まずは右手と左手を分けて練習するとよい。各々の手がフレーズを覚え込んできたなら、いよいよ両手を合わせたトレーニングに入るのだ（図1）。

では、メイン・フレーズを片手ずつ解説しよう。1&2小節目は、右手人差指が4弦15フレット（ルート音）、中指が3弦17フレット（5度）、薬指が2弦19フレット（9度）を担当して、8分音符で“ルート音→5度→9度→5度”という流れをくり返す。基本的にタッピングした指は、次の指が押弦するまで離さずに音を伸ばし続けることが大切だ。3&4小節目では、この動きをキープしたまま、ヘッド側へ2フレット分移動する（4弦13フレットがルート音）。人差指・中指・薬指の間隔をウマク保ちつつ、それぞれが違う弦をタッピングすることを忘れないように心掛けよう。

メロディを担当する左手は、2小節で1つの区切りとなる。1&2小節目と3&4小節目は、符割り（リズム）は同じだが、ポジション（音程）がまったく違うので注意しよう。2小節目間のリズムは、8分音符を土台にすると、3音分（付点4分音符）→3音分（付点4分音符）→3音分（付点4分音符）→2音分（4分音符）→2音分（4分音符）となる。両手を使って、コードとメロディを巧みに奏しよう（写真①～④）。

図1 リズムック・タッピングの練習法



1小節目1拍目。右手でコードを鳴らしながら……



左手でメロディを奏しよう。



3小節目では、右手が2f分移動する。



両手の動きを正確に分けよう。

【注意点2】 右手&左手

両手の役割を適切に分けて タッピングを演奏しよう

竹フレーズでは、左手が3&4弦を使ってベース・ライン、右手が1&2弦を使ってコードを弾く（写真⑤～⑧）。左手は5フレットと7フレットのみだが、弦移動が激しいのでミュートが大変だ。音が多少暴れてしまうかもしれないが、あまり気にせずにベース・ラインをしっかりと鳴らしてほしい。右手は中指で1弦、人差指で2弦を同時にタッピングする。各小節とも1拍目アタマと2拍目ウラが発音タイミングになるが、タッピング後に音を4分音符伸ばしたら、すぐに8分休符を入れよう（休符では音をしっかりと止めることが大切）。“左手ではファンキーなノリ、右手ではアタック感のあるサウンドを生み出す”というイメージを持つとよい。



竹フレーズ1小節目1拍目。1&2弦9fを同時に叩く。



続いて、右手が11fに移動する。左手の動きにも注意。



2小節目1拍目では、1&2弦12fをタッピングする。



再び11fに戻る。右手の音の切り方も気をつけよう。

【左右でリズムが異なり】異なる2つのことを同時に行なうのは大変だ。まずは、ベーシックなリズム・プレイを担当する手を無意識に動かせるようになるために、片方の手の練習を重点的に行なうことから始めてみよう。